

第二回

みなかみ町俳句短歌大会

作品集

俳句の部

46 人 92 句

※同点の場合は投稿順を優先しました。

※一人の投稿者の受賞は一賞に限定しました。

※入賞・入選以外の作品は投稿順に掲載しています。

【みなかみ町長賞】 19点

門のみの母校となりし遅桜

松田 一期

【入選】 11点

寝る孫に借す手枕や花の昼

林 美佐子

【みなかみ町議会議長賞】 17点

あの昭和共に語るや春炬燵

遠藤 長代

【入選】 11点

初燕ダム放流の水けむり

佐藤 美智子

【みなかみ町教育長賞】 14点

無人駅五月の風の通りぬけ

長浜 利子

【入選】 10点

咲き誇り散るもまた良し花筏

津 恵 女

【みなかみ町文化協会会長賞】 13点

五月晴老いて洗濯低く干す

鈴木 節子

【入選】 9点

山若葉大河の源流望む橋

林 明 男

【大会実行委員長賞】 13点

色めでて菜飯ほどよき塩加減

高橋 キセ子

【入選】 9点

花は葉に義人を祀る地蔵尊

酒井 富子

【入選】 8点

初蝶の佳き事告げに来たるごと

平井 登志絵

【入選】 8点

辛夷こようし咲くみなかみの天突そでらき挙げて

曲 葉

【入選】 8点

日輪の光まばゆき柿若葉

澁谷 典子

【入選】 7点

密を避け聖火は駆ける希のぞみのせ

高橋 桂子

【入選】 7点

農に生き長き人生畑を打つ

高橋 基一郎

【入選】 7点

素直さを絵に描いたごと葱坊主

番場 正夫

【入選】 7点

白球を追う児こ等の声山笑う

原澤 芳雄

【入選】 7点

山笑う日毎変りし利根の景

諸田 弘

【入選】 6点

爛爛と子らの視線に蝌蚪の紐

美 泉

【入選】 6点

蒲公英たんぽぽのもつとも明あかし野の小径

林 惠美子

【以下、投稿順に掲載】

春惜しむ水面みなもに揺れる花筏

高橋 桂子

会食かいしょくについてころりと厚勞者

阿部 智恵子

一年いちねんを墓かぶつに手を置く彼岸ひがんかな

高澤 ヒサヲ

老そなを出来る事へり春の暮れ

鈴木 節子

手のひらにとべぬ子こすずめそつと抱く

高澤 ヒサヲ

トンネルを出万緑の駅新幹線

林 明男

登下校熊除けの鈴手に下げて

湯本 三四郎

ジバングの旅はおあずけ花だより

関 和子

桜咲きみなかみ心我が余生

湯本 三四郎

幼いふスギナはつくしの兄弟と

関 和子

恋女房巧みに芹の香も料る

美 泉

鳥帰る生命丸ごと楯たてにして

平井 登志絵

青空に白れん蕾輝けり

原澤 健吉

芽柳のさみどり色に癒なごされて

高橋 吟子

穏やかに月に夜桜似合いおり

原澤 健吉

遠山のかすみで見ゆる黄砂こうさかな

高橋 吟子

遠く鳴き夜明けの初音恋の声

高橋 基一郎

水温む青き地球の果てまでも

遠藤 長代

田水引きあとは機械に託す春

番場 正夫

永き日や固定電話のちり光る

林 さよ子

雪しろや奥利根川のラフティング

杉木 輝夫

山峡さんげつに生きて散策芽吹き時

林 さよ子

山深き藤原郷あふや揚あびばり

杉木 輝夫

田水いま満ちゆく早さ初燕

高橋 キセ子

春光や兩手に杖で投函す

木曾 武子

芽吹く湯やまだその奥もありそな

曲 葉

桜散る母の忌日を待たず散り

木曾 武子

沈黙を破り全山芽吹きかな

北 雲

単衣着て喜寿の秘め事ありにけり

林 美佐子

青空や繚乱りょうらんの春峡の里

北 雲

初夏の屋外で楽しむティータイム

長浜 利子

居所きょ寝に茶筒マクラは同じだね

平澤 文恵

師の訃報泣き顔隠す大マスク

津 恵 女

子雀の声で竹の子頭出し

平澤 文恵

春雪にそつと顔出す福寿草

阿部 智恵子

曾孫ひこまひの寝返りできて初節句

林 恵美子

旧街道山吹の黄のここかしこ	前原 杏	新緑や汽笛一声シャッター音	林 好一
ゆく春は水面まばゆきもの満ちて	前原 杏	池の面の紅いきいきと落椿	佐藤 美智子
峡棚田畦に黒々野焼き跡 ^{あじ}	原澤 芳雄	雑念も晴れてすがしや花吹雪	諸田 弘
青き踏むつかれを知らぬスニーカー	久野 公市郎	絶え間なく降り頻る雨穀雨かな	岡田 完二
佐保姫のかくれあそびや里の靄	久野 公市郎	念願の準優勝山笑う	岡田 完二
芽吹き風試歩の夫の背あたたかき	久野 とし子	亡父の目は黄色くて蜆汁 ^{しじま}	須藤 清美
とりたきと涙のほほや五月鯉	久野 とし子	春風や日の香に浮くは猫の足	須藤 清美
振り袖や成人の日の初曾孫 ^{ひまじ}	品田 幸子	歩かねば句もうかばずや犬ふぐり	内山 静子
人住まぬ庭に花びら散り積もり	品田 幸子	石楠花の今年はしかと色よくて	内山 静子
カエサルに似たる雲見て春跳る	高橋 恵美子	烈風 ^{れつふう} に雲ちぎれ飛ぶ耳ふたつ	真庭 唯芳
コロナ禍や百花繚乱に心和ぐ	高橋 恵美子	巣作りの蜘蛛に目を剥く雨蛙	真庭 唯芳
遠足やリュックが踊る一年生	澁谷 典子	堅香子や風は山辺の子守歌	澁谷 啓子
豪快に竹砕く音風光る	阿部 伊亨	茂吉忌や母の手紙の行書文字	澁谷 啓子
コロナ禍や千本桜人まばら	阿部 伊亨	孔雀鳴く沼田城址のつつじかな	酒井 富子
村里 ^{むら} すべて無口になりぬ春コロナ	関 信司	九枚の絵合わせパズル鳥雲に	羽鳥 正子
癌はなし友はいかにか畑耕す ^{おと}	関 信司	発条仕掛 ^{はね} のブリキの玩具春惜しむ	羽鳥 正子
口笛で返す林間初音かな	松田 一期	声出して読む新聞や春は行く ^ゆ	山田 高江
雀来 ^{すずめ} て草引く老と遊ぶ気か	林 好一	人と人流れの止まる花は葉に	山田 高江

短歌の部

50 人 100 首

※同点の場合は投稿順を優先しました。

※一人の投稿者の受賞は一賞に限定しました。

※入賞・入選以外の作品は投稿順に掲載しています。

【みなかみ町長賞】 12点

たわむれに綿毛を吹けばタンポポは孫との思い出乗せて飛びゆく

木村 初枝

【みなかみ町議会議長賞】 12点

人々に夢と希望を届けたる池江選手の復活見事

澁谷 典子

【みなかみ町教育長賞】 11点

雪解けの利根の激流波高ししだるる柳静かにゆるる

石坂 喜美江

【みなかみ町文化協会長賞】 10点

幾つもの支流束ねて利根川は雪しろ水を海へ導く

杉木 輝夫

【大会実行委員長賞】 10点

流木の打ち寄せられし利根川にふきのたう出づ重なり合ひて

荒木 洋子

【入選】 10点

幾百年天王桜は咲き継ぎて乙女のごとく花はうす紅

高橋 操

【入選】 10点

滝行を終へたる女の面清く行衣に滴る水と歩めり

田村 鶴江

【入選】 9点

今日よりも明日あすはいいことあるらしき雨があたりて七色の虹

林 いくじ

【入選】 9点

いつの日か笑って語る日も来ようコロナ禍報じるニュース聞きつゝ

北 雲

【入選】 8点

花冷えの北風の中旅立ちぬやさしき眼差し今も心に

奥村 清美

【入選】 8点

人の世の不安心配知らぬげに山は春色さくら満開

高橋 吟子

【入選】 8点

藤原の茅ぶきの屋根二、三軒足跡もなく雪降り積もる

河合 なみ江

【入選】 7点

いたずらに馬齢を重ね気が付けば盃に映りぬ我が顔のしわ

番場 正夫

【入選】 7点

今年まだ燕の来ない我軒に古巢が三つ主^{あるし}待ちをり

長浜 利子

【入選】 7点

鯛雲右へ左へ飛び跳ねて風の機嫌で鯨に変わる

篠原 忠

【入選】 7点

しばみゆく林檎を啄む鴨^{ひよどり}の姿を眺む冬の終りに

吉田 まゆみ

【入選】 7点

我が鎌をあざける如くタンポポの三日にあけず咲き誇る畦

林 好一

【入選】 6点

指切りは守られぬものわが嫁になると誓ひし君の訃を聞く

眞庭 義夫

【入選】 6点

句が唱い歌が啼くがに木札鳴る初越野路は水仙あかり

見城 邦夫

【入選】 6点

タラの芽の天ぷら食べて美味しいと誉める君こそ私の自慢

小林 はつ江

川霧の上りしあとに揺れもせず笹笛橋の人待つ風情 眞庭 義夫 衰えぬコロナ禍なれど聖火行くオリンピックへの確かな歩み 津 恵 女

誕生日に贈られしシャツ派手目なれど桜の咲く頃にまといて見よう 見城 邦夫 ブティックに娘と立寄りしひとときを夢膨らます街角の春 木村 初枝

食堂に入りて高級メニュー表子に従いて至福な夕餉 林 いくじ につこりとタンポポ咲ける田圃道鶯なきてスキップしてみる 田村 鶴江

りらの花を一枝なれどと手折り来し友は至れども香の満る部屋 松井 とし子 気にかかる故郷の空青くあれくすみて我を夢からおこす 阿部 智恵子

待ちわびし新車に乗りて出勤の夫を見送る今朝のうれしき 松井 とし子 ころぶなと八十路の春は花たちが前を見る様首ふりながら 阿部 智恵子

田仕事をすべて機がやる世と為りて先祖驚く農様変り 番場 正夫 花びらが春をささやくカタクリの微風に揺れてひろがる木下 関 和子

山あいに住む友訪ね旅をする共に傘寿の妻と連れ立ち 大崎 藤一郎 三月にチューリップ咲く我が庭も異常気象か黄色が先に 関 和子

久に会いし友との一夜尽きるなく酔いて歌いて踊りて遊ぶ 大崎 藤一郎 散りて来るさくら花びら自動車ゆき交うたびにうずまきて追う 高橋 吟子

コロナ禍に久しく会えぬ孫も子も己が命は縮むばかりに 杉木 輝夫 山影の墓地一面に水仙花幸福色の浄土と化したり 遠藤 長代

利根川の桜堤の散歩道晶子の歌碑ならぶ大人路 薫 子 コロナ禍に人は待たれり救世主麒麟は来るかきつとくる来る 遠藤 長代

雪がとけネコヤナギの芽がはじける自肅の里に春の訪れ 薫 子 田仕事に意欲満々励みしが夜は夫と腰に湿布張るなり 小林 博子

車の無き一週間の不便さに羽ばたく鳥にも嫉妬覚える 奥村 清美 休業のホテル仲間と久々に会へば光の見えたるごとし 小林 博子

満開の大山桜を煽る風今日の見せ場を何処に散らす 荒木 洋子 君子蘭小さき蕾株元に出来て嬉しき咲く日待たるる 河合 なみ江

バス待ちの駅舎の内の吊し雛縮緬の風合ホッコリと 細矢 ケイ子 ナツメロを歌えば昭和の灯が恋しかの人の友つゝが無しかな 北 雲

ヒラキリ蓬摘みたる曲き背に季節はずれの雪花が舞う 細矢 ケイ子 ピカピカのランドセル背負う女の子別れを惜しむか子犬抱き上げ 平澤 文恵

押入れに眠りしまゝの鯉のぼり仲間と連なり湖上を泳ぐ 長浜 利子 今ごろはツバメの親子どこだろう古巣をのぞく子雀一羽 平澤 文恵

コロナなど吹き飛ばさんと強き風背に受け春の土掘り返す 高橋 操 風景画描くやうなる芽吹き時色とりどりの個性に美しき 林 恵美子

小鳥に目覚め昼は小さな菜園とひとりの食事息災なる幸 津 恵 女 オハナガワラッタ♪ほんとうに笑つてる庭の水仙みな此方向きて 林 恵美子

佇 ^{たす} みて鳥の声聞けば父母の元吾子の元へと心羽ばたく	中島 早苗	誕生日特大鯛と格闘しアクアパツアで祝ってくれた	宮崎 りえ子
雪解けの利根川どうどう岩打ちて術なき鬱憤果つるまで	中島 早苗	ウグイスと川のせせらぎ聞きながら畑仕事する夏が楽しみ	宮崎 りえ子
新卒の男子社員の過ぐる時ネーブルのやうな香せりほのかに	前原 杏	廻るすし行列並び席に着く好きな鮓無く機嫌損ねる	大山 真紀枝
はくれんの入り日の空に浮きたちて清らに揺れる今日も明日も	前原 杏	遠くに置いた目覚ましを止めてまた布団に入る休日の朝	大山 真紀枝
風光る名胡桃城址訪う偶ぶ真田史大家渋谷先生	原澤 芳雄	幼い日握る姿に憧れた鮎の職人今は見られぬ	大山 智也
道の辺の花壇に咲けるチューリップ赤白黄花蝶が舞いくる	原澤 芳雄	窓越しにモズがキョロキョロ虫啜え食卓探し朝食準備	大山 智也
ウグイスの初鳴き聞いたその朝は何か善い事ありそな気が	ベネット昭子	洗い場の古木の梅も満開にコゲつき鍋をゴシゴシ洗う	本多 義二
町中 ^{まちじゆう} が桜、桜で満ち溢れスカーフの色春色にする	ベネット昭子	おこりたいおこりたいけどおこない血圧計はそのままにいる	本多 義二
夕あかね薄れゆく野へ「またあした」光を放し芽吹く草の芽	久野 とし子	桜咲き日の出も早くなるころに雉鹿の声春の訪れ	金子 美由紀
ペチャクチャと小鳥囀り樹の目覚今朝も誘ふ景色あるらし	久野 とし子	お年頃ならぶ弁当浮かぶのは健診の紙掴むシャケ弁	金子 美由紀
君と居て頭撫で撫で楽しんでメール見つかり踏まれて土下座	篠原 忠	描きたるメールは白き夜空かなきえない☆ ^{ながれぼし} に願いを	山崎 杜人
白い腹見せさつそうとジャンプする鯨も空を飛びたいのです	田中 春枝	さかなへんしりとりはまたできるねえばあちゃんぼくはさて、だれでしょう？	山崎 杜人
菜の花よ我ら千本桜とで人の心を明るくしよう	田中 春枝	父越えし八十路迎える日々過すある日に我は詐欺に引つ掛かる	高橋 恵美子
初節句スーパーで泳ぐ鯉のぼり町中に住む孫に届ける	小林 はつ江	身罷りし愛する人の多かりし毎日思うは塵となり日を	高橋 恵美子
「湯かげんはいかが」と聞けば薄目あくふるさと知らぬ別府の鰯は	篠原 香代	七人の曾孫にバトン渡すよに姉は旅立つ五輪待てぬと	澁谷 典子
春の夜静寂に開く動物園大熊小熊獅子と指さす	篠原 香代	病床の「今度は駄目だ」と母の声耳に残りて今も切なし	吉田 まゆみ
父を待ち街灯下で鬼ごっこ土産は何時もの秋刀魚とバナナ	本多 寿美枝	山鳩が我が家の庭を覗き見て何か言いたくデッポッピー	林 好一
川べりの散りゆく桜梢では子供のウグイスケキヨと鳴き	本多 寿美枝	囀 ^{さえず} りは未 ^ま だあどけなき鶯の朝の散歩に春風そよぐ	諸田 弘

満開の御殿桜に石垣もふつつ出でる真田の歴史 諸田 弘

みなかみは関東平野最北地利根水源の美しき町 真庭 唯芳

月昇りネオンが灯る水上の湯煙る彼方雪の谷川 真庭 唯芳

野良猫は我が家住み込み十余年橋のたもとで我帰り待つ 真庭 三枝子

散歩後に主人と二人ビデオ見ゆ渋沢栄一青天を衝け 真庭 三枝子

抱かれて笑まふ赤子の顔見れば遠き日の吾子胸に笑まうる 真庭 ヨシ子

火星の地を写し出されて見入れども何やら淋し砂礫の渴き 真庭 ヨシ子

亡き母の好みし春の香山淑の木の子摘みつつ初音を聞けり 石坂 喜美江

第二回みなかみ町俳句短歌大会作品集

令和三年五月二十八日 発行

編集／発行 第一回みなかみ町俳句短歌大会実行委員会
〒三七九―一三〇五

群馬県利根郡みなかみ町後閑三二一番地一
みなかみ町教育委員会生涯学習課内

電話 〇二七八(二五)五〇二五